



第 23号

平成14年4月発行

通機 会 Web ページ <http://www.mce.uec.ac.jp/tsukikai/>

第6回通機 会 総 会 開 催 の ご 案 内

通機 会 会 長 石川島播磨重工業(株) 坂田芳幸

すっかり春の日和が続く毎日ですが、通機 会 会 員 の皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。新学期、新年度を迎えて気持ちも新たに各方面でご活躍のことと存じます。

通機 会 におきましても、本年は会則に従いまして4年に一度の総会を開催し、併せて会長、副会長他役員の改選を行なう年にあたります。

平成10年5月の第5回総会にて会長職を拝命いたしましてから、4年間にわたって活動してまいりましたが退任の時節となりました。この間副会長及び幹事の方々をはじめ会員の皆様には多大なご指導とご協力をいただき、その任を終えることができますことを深く感謝申し上げます。

本学におかれましても平成11年に大幅な学科改組がおこなわれるなど次世代へ生き残る大学の姿の模索を続けておられ、産業界においては長期化する平成不況の下で様々な連携・統廃合やリストラの計画が連日報道されています。国内外の政治・経済・社会の変化が激しい昨今、さまざまな課題が皆様の周りに押し寄せていることと存じます。

通機 会 においては「様々な分野で活躍されている会員の皆様のコミュニケーション、相互啓発の場を提供する」ことを名実ともに標榜できるようにとの思いを持ちつつ、平成12年9月には機械系学科創設40周年記念の行事を全面的に後援する等の活動をこの4年の間も継続してまいりました。「継続は力なり」という言葉にあるとおり小さなことでも着実に続けることが大切だと思います。今後ますますの通機 会 の発展を願ってやみませんし、会長を辞しても会員としてできる限りの貢献を果たしていきたいと考えております。

つきましては、下記のように総会を開催いたしま

す。同時に「機械系学科の歩んできた道、目指す先」というテーマで有識会員をパネラーに迎えパネルディスカッションを行ないます。活発な意見交換を行なっていただき、お互いの理解を深めるとともに、今後の通機 会 の活動にも反映できる成果が得られるものと期待しております。また、参加者各位の親睦を図っていただくための懇親会も行ないます。会員各位におかれましては4年に一度の機会ですので万障お繰り合わせのうえご参加いただきますようお願いいたします。

記

開催日：平成14年5月18日(土)

(1) 通常総会

時 間：14:00～14:45

場 所：電気通信大学 創立80周年記念会館
(リサーチ)3階・フォーラム

(2) パネルディスカッション

時 間：15:00～17:00

場 所：電気通信大学 創立80周年記念会館
(リサーチ)3階・フォーラム

テーマ：「機械系学科の歩んできた道、目指す先」
内 容：

通信機械工学科から知能機械工学科に至る歴史の中で、機械系学科の教育・研究体制はどのような変遷を遂げてきたのか、また、統合・再編や独立行政法人化など国立大学の置かれている環境が大きく変わろうとしている中で、どのような方向に進めばよいか、数名のパネラーからの話題提供の後に意見交換を行う。

(3) 懇親会

時 間：17:30～19:30

場 所：電気通信大学 学生会館3階 ハルモニア
会 費：5,000円

退官によせて

元知能機械工学科教授 根岸 秀明



大学の同窓会のなかで、通機会は、田中栄賞など学科学生への褒賞を始め、学科の各種行事に理解を示し、強力に、活発に支援活動を行っており、同窓会のあり方の1つの規範的な存在であろうかと思われま

す。現在の新M棟(東4号館)竣工の際には多大のご寄付を頂きましたことは記憶に新しいことです。これも、志願して入学されたこの学科で、それなりに勉学に励み、悩み考えながらも何かを学び取り、世の中に巣立って行かれた卒業生の皆様が、学科を愛し、忘れずにしてくれたことの証と思います。この学科は、創設時の通信機械工学科から、一時期機械工学科となりましたが、機械制御工学科そして現在の知能機械工学科へと変身を重ねて来ました。いつも時代を先取りしたような姿で学科が世の中をリードしてきたといえます。永く学科に携わっていて、学科が衣替えするたびに、新しいものへの興味と関心を胸に入学してくる学生に出会えたことは、私にとって、頭脳の若返りでもあり、大変刺激的でした。ちょっとマンネリになったかなと感じる頃に、また学科編成が変動したようなありさまで、のんきに過ごさせてはもらえませんでした。来年には大学院が新しい形に生まれかわることになっています。大学の独立法人化の行方を見ずして大学を去ることになりましたが、独立法人になると同窓会の支援がいっそう重要になるのではないのでしょうか。通期会のますますのご発展を祈念する次第です。

いろいろな面で、優秀で、個性豊かな学生に囲まれて過ごした大学生活は、苦しいことも多々経験しましたが、家の近くの不動様からぼけ封じ護摩を頂き、それのご加護を期待しながら、概して云えば私の大学生活は幸せだったといえます。皆様、ありがとうございました。

退官に当たって

- ガルベストーンにて -

元知能機械工学科教授 黒崎 晏夫



ガルベストーンで書いている。部屋の窓からはメキシコ湾に沈む夕日が見える。風が強く熱帯風の樹木が大きく揺れている。数十マイル続く砂浜沿いには、ハリケーンに備えて高足の二階建ての別荘が続いている。ガル

ベストーンは、米国のテキサス州のメキシコ湾に面した町で、嘗ては綿花・砂糖の積み出し港として栄えた都市である。プランテーション跡と現在も稼働している砂糖工場にその名残りが残っている。ガイドブックによると1900年の大ハリケーンで死者6000人、港町全体がメキシコ湾に流される大被害に遭遇し、その復興の途中で油田が見つかりオイルブームが来たそうである。今は、油は出ないが、天然ガスは出ており、湾内のあちこちにサイトを見ることができる。

本日は、午前中で、ヒューストンでの学会が終了したので、車で1時間程のドライブを楽しんで来た。ホテルは、昨日インターネットで探し、予約もした。実に便利になったものである。このホテルは、リゾートの高級ホテルで、普通であれば小生など泊れるホテルではない。しかし、現在はシーズンオフであるのと、前日になっても予約がないので一挙に大ディスカウントである。インターネット以外は受け付けない予約だとのことだが、もちろん小生は1泊のみである。ともかく、今晚は気持ちよく寝かせてもらえるだろう。

小生は、外国に出かけるのは好きであり、またドライブも好きである。仕事柄、外国に出かけるのは、ほとんど国際学会への出席のためであったが、その際にできるだけ時間を作って開催地の周りの興味ある場所を訪れ、また友人に会うために車を走らせた。多分、大学ではレンタカーを使うことを許していないのかも知れない。しかし、もう時効であろう。

小生はいつも空港から車で行動をしていた。車を使わないと、点に存在し、面的な行動は出来ない。その代わりに、宿泊は学会開催の高価なホテルは避けて、何時も気楽なモーテルである。

さて、小生は、米国のインターステイトのハイウェイを走るよりは、時間が許せば田舎道を走るのが好きである。そこには、その地方の自然が有り、レストラン、アンティークの店、市場など生活の匂いを楽しめる。先程も、田舎でルイジアナ・レストランの看板があったので遅い昼食のために入ってみた。なお、ルイジアナ料理とは、ニューオリンズからきた料理であり、不味いアメリカ料理の中で唯一美味しい料理であると小生は思っている。好きなガンボスープ(見かけはきれいではないスープだが魚介類とオクラが材料で味は好い)を注文した。ヒスパニック系のウエイターが、ホワイトライスかダーティライスを付くのだが、どちらにするかと尋ねてきた。何だ、そのダーティライスとは?日本では料理には決して付けない名前に驚き、如何なるライスか聞き返した。スパイスが入って色がついているが、決して辛くはないとのこと。トライしてみることにした。結果は、そのボリュームとスパイスの強さに降参して、1/3程を頂いただけであった。でも、このようなことが実に楽しい。

旅は疲れて帰るのはなく、日本に帰ったらまた頑張れる源になる。最近、メールなるもので仕事が追っかけてくるが、それでも気分転換はできて活力が湧いて来る。ただ、今回が大学生活の最後の国際会議出席であると考えると少々感傷的にもなる。でも、小生は退官後に実現したい小さな夢がまだある。それは、米国のルート66を気俎に西から東(LAからシカゴ)へドライブすることである。もちろん、宿泊地など決めずに気の向くままである。年齢による体力と気力の衰えが来ないうちに実現できることを期待している。

外国から日本を振り返ることにより、日本の事がより理解できることが多い。若い人達は外国に出かけて、多くの場所を訪れ、友人を作り、日本を理解して欲しい。

さて、本学での5年間の研究生活は文字どおり充実したものであった。この様な環境を与えて下さっ

た本学の教官・事務職員の方々、また研究に協力してくれた学生諸君に、この場を借りて心から感謝の意を表したい。

通機会から依頼されていた退官に当たっての文をこんな勝手なことを書いて済ませて好いのであろうかと少しは気にしながらも、最後に、電気通信大学の智能機械工学科の益々の発展を祈りながら筆を置くことにする。

第15回 田中栄賞受賞者

*平成13年9月

田中 太(課程博士(工学))

「流体 - 構造連成問題の数値計算法とその応用に関する研究(弾性翼の解析を中心として)」

(指導教官:黒田教授)

古川 勝明(論文博士(工学))

「実働荷重下における疲労き裂進展特性と破面形態定量評価に関する研究」

(紹介教官:越智教授)

村越 庸一(論文博士(工学))

「塑性加工における難加工問題への電磁成形法の適用に関する研究」

(紹介教官:根岸教授)

*平成14年3月

飛田 和輝(課程博士(工学))

「光磁気記録方式を応用したロータリエンコーダに関する研究」

(指導教官:下条教授)

Yahyaoui Al Moez(課程博士(工学))

「Numerical Simulation of Bypass Transition in Compressible Plane Poiseuille Flows」

(指導教官:前川助教授)

市島 充(課程博士(工学))

「有限要素解析における粗密分割継目の取扱い」

(指導教官:横内助教授)

Nuttaphong Sornsuwit(課程博士(工学))

「Study on Manufacture of High Precision Fresnel Lens Based on Ultraprecision Microgrooving Technology」

(指導教官:竹内教授)

Fabrizio Martelli(論文博士(理学))

「Analytical Solutions and Characteristics of the Diffu-

sion Equation to Describe Photon Migration Through Homogenous and Layered Diffusive Media: Applications to Tissue Optics」

(紹介教官：山田教授)

Angelo Sassaroli (論文博士(理学))

「Fundamental Studies of Near Infrared Spectroscopy and Optical Tomography for Biomedical Diagnosis」

(紹介教官：山田教授)

依田 光正 (論文博士(工学))

「人間の行動分析に基づいたロボット行動とその評価に関する研究」

(紹介教官：竹内教授)

学位取得を振り返って

機械制御工学専攻 飛田 和輝

私の博士後期課程3年間を振り返るとき、語らずにはいられないことが一つあります。それは、主任指導教官が毎年違うという異例の経験です。これはオーケストラに例えれば、シーズンごとに指揮者が違うようなものでしょうか。カラヤン、バーム、パンスタイン、ライナー、ショルティ・・・もしそんなに頻りに指揮者が交代したら、オーケストラは上から下への大騒ぎです。しかし、幸運にもコンサートマスターの主張を实によく反映させてくださる良い指揮者の先生方に恵まれました。そして、決して一色だけに染まることなく研究を進めることができ、ついに学位を取得することができました。

ご指導くださった、下条誠教授、明愛国助教授、金森哉吏助手、そして、お忙しいご公務の合間を縫って投稿論文等の校正、訂正くださった梶谷誠学長に深く深く感謝します。

学位取得を、車の免許にたとえると、ようやく仮免を取得して教習所所内を後にするところ。路上でいきなり事故を起こさないように慎重に、かつ機敏に運転していきたいと思います。

13年の日本留学を終えて

機械制御工学専攻 Nuttaphong Sornsuwit

日本での13年半に及ぶ長い留學生活が電気通信大学機械制御工学専攻での学位取得をもって終了することになります。うち9年間は電気通信大学で過ごしたことになります。小学1年から中学3年までに相当する、決して短くない期間ですが、振り

返ればあっという間でした。もっとまじめに積極的に勉強すればよかったなあというのは私にとって、いつも後になって思うことではありますが、学位取得に至る過程は今後の人生に大きな糧として得られたのではないかと思います。学位取得の研究テーマはそのまま、これからの仕事に直接結びつけるものなのかどうかまだ分りませんが、非常に重要なヒントになることは間違いありません。

ここまでやって来られたのも、来日直後に日本での留学に不可欠な日本語を教えてくださいました日本語学校の先生方はもちろんのこと、日本での勉学の基礎を築いてくださった東京学芸大学附属高校の先生方に感謝しなければなりません。さらに、電気通信大学の機械制御工学科では、何かとのんびりしがちな私に課題や目標を常に指導してくださった竹内・森重研究室の先生方がいらっしゃってはじめて研究成果が出て学位取得に至りました。帰国後も継続して貴重なご指導を希望するとともに、この機会を借りて感謝したいと思います。

田中榮賞を受賞して

機械制御工学専攻 市島 充

私が就職した当時、自動車メーカーではFEMを用いたプレス成形シミュレーションを自社の技術として確立しようとしていた時期であり、私も学生時代に学んだFEMを活用できるその業務に携わっておりました。更なる知識取得を目的とし、社内の奨学休職制度を利用して大学院に入学しました。

在学期間中の3年間はあっという間に過ぎてしまいましたが、これもひとえに横内先生の懇切丁寧なご指導により充実した研究生活を送れたからだと思っています。横内先生には大変感謝いたしております。また、M科の先生方には研究に関するご指導にとどまらず、励ましのお言葉までも常にかけて下さいましたことにお礼申し上げます。

昨年4月の会社への復職後は現物をわからないことにはシミュレーションもできませんので、今度は実際のプレス成形に関する業務に異動しプレス品と格闘する日々を送っております。

最後に通機会の益々のご発展をお祈りいたしております。

学内情報この1年

1. 教職員の異動など

平成 13 年 4 月 1 日

秋田麻美子講師、採用

張守彬助手（根岸研究室）採用

長塩知之助手（木田研究室）採用

松村隆助手（越智研究室）助教授に昇任

岡田英孝助手、講師に昇任

下条誠教授、転入（茨城大学 工学部 教授）

山田幸生教授、転入（産業技術総合研究所
機械技術研究所 基礎技術部長）

平成 13 年 4 月 18 日

山藤和男教授、名誉教授に就任

平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日

田中孝之助手（田中研究室）平成 13 年度在外
研究員（カリフォルニア大学アーバイン校）

平成 14 年 3 月 31 日

黒崎晏夫教授、停年退職

根岸秀明教授、停年退職

水田拓道教授、停年退職

佐藤公俊助手（黒崎研究室）辞職

（産業技術総合研究所に赴任）

張守彬助手（根岸研究室）転出

（金沢大学 工学部に赴任）

2. 卒業生と入学式の記録

平成 13 年 4 月 6 日 入学式

* 学部 知能機械工学科

Aコース 110名、Bコース 32名

* 大学院 機械制御工学専攻

博士前期課程 72名

博士後期課程 6名

* 学部編入学 知能機械工学科

Aコース 10名、Bコース 2名

平成 13 年 9 月 28 日 9 月期卒業式

* 大学院 機械制御工学専攻

博士前期課程 1名

博士後期課程 1名

平成 13 年 10 月 1 日 10 月期入学式

* 大学院 機械制御工学専攻

博士後期課程 1名

平成 14 年 3 月 22 日 卒業式

* 学部 機械制御工学科

Aコース 132名、Bコース 25名

* 大学院 機械制御工学専攻

博士前期課程 72名

博士後期課程 4名



絵：黒崎晏夫先生